

# 会報

第56号 平成28年3月 題字は 大河原正一会長 筆

発行所



公益社団法人 福島県浄化槽協会  
福島市野田町一丁目16番35号  
電話 (024) 531-1778  
FAX (024) 531-0880  
URL <http://www.f-jkjk.com>  
メールアドレス [info-fjk@f-jkjk.com](mailto:info-fjk@f-jkjk.com)

## 浄化槽の普及促進へ関係者が情報交換

本県で初開催 第29回全国浄化槽技術研究集会・第37回浄化槽行政担当者研究会

全国の国・地方自治体の行政担当者、大学・研究機関、業界関係者らが一堂に会して浄化槽に関する最新の情報を共有する、第29回全国浄化槽技術研究集会・第37回浄化槽行政担当者研究会が平成27年10月14、15日の両日、郡山市のホテルハマツで開かれた。本県では初の開催。2日間で延べ約1,300人が参加し、浄化槽に関する講演・報告・研究発表などを通して、地震等の災害に強く、整備費等が低コストで人口減少社会にも対応可能ななどの浄化槽のメリットを広め、より一層普及させるための課題、対応策などについて理解を深めた。

研究集会・研究会は、浄化槽に関する最新の情報を提供し、水環境の保全と快適な生活環境の創造につなげようと、10月1日の「浄化槽の日」の関連行事として、昭和62年から毎年開催している。主催は日本環境整備教育センター。環境省、国土交通省、農林水産省、県、郡山市、浄化槽の日実行委員会、全国浄化槽推進市町村協議会が後援した。当協会も開催県の業界団体として準備・運営に協力した。



初日は、研究発表会と式典、特別講演などが行われた。式典では、廣瀬省日本環境整備教育センター理事長が「地方自治体に最も適し、地域住民が望む水環境保全を実現する浄化槽について理解を深めてほしい」とあいさつ。来賓の吉川圭子環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部浄化槽企画官が「(浄化槽は)人口分散地域の水環境保全に重要な役割を担う」、安部勝也国土交通省土地・建設産業局建設業課技術管理官が「水の都・郡山での研究開発、ディスカッションが母なる川・阿武隈川と全国の水質浄化につながることを期待している」と述べ、佐藤修児農林



祝辞を述べる品川市長(上)とあいさつする大河原会長

佐藤修児農林



あいさつする廣瀬理事長

水産省農村振興局整備部地域整備課課長補佐も祝辞を寄せた。

本県の畠利行副知事は「水環境の向上を通して、ふるさとふくしまを取り戻す後押しを期待している」と浄化槽の効果に期待したほか、品川万里郡山市長も「水環境は行政の要。体に例えれば腎臓と肝臓に当たる。水環境システムは皆さんに支えられている」と浄化槽業界の活躍を願った。当協会の大河原正一会長は、来県を歓迎した上で「みなし浄化槽の合併浄化槽への転換と維持管理も含めた一括契約方式を推進していく」と業界発展を誓った。

席上、浄化槽関係事業功



講演する後藤氏(上)と発表する長林氏



者（廃棄物・リサイクル対策部長表彰）、浄化槽研究奨励・楠本賞受賞者を表彰。日本環境整備教育センター理事長感謝状を贈呈した。

式典終了後、NHK放送文化研究所メディア研究部副部長でNHK放送総局解説委員室解説委員の後藤千恵氏が「スモール・イズ・クリエイティブー超高齢・人口減少社会を幸せに生きるには」と題して特別講演。日本大学工学部土木工学科上席研究員の長林久夫氏が「放射能汚染からの水環境の回復に向けて」をテーマに情報発表した。次回開催地の東京都水環境システム協会の高橋静雄会長があいさつした。



懇親会で乾杯する上山会長（上）と祝辞を述べる長谷川部長



（上から）交流を深めた懇親会、地酒を取りそろえたブース、会場を沸かせたフラダンス

初日のプログラム終了後、懇親会が開催され、来賓と参加者約430人が交流を深めた。廣瀬理事長のあいさつ、長谷川哲也県生活環境部長、品川郡山市長らの来賓祝辞の後、上山健治郎全国浄化槽団体連合会長の発声で乾杯した。県と当協会は、平成26酒造年度・全国新酒鑑評会で金賞受賞数3年連続

日本一に輝いた福島の日本酒を堪能してもらおうと、金賞受賞銘柄などを取りそろえ、参加者に振る舞った。アトラクションでは、ひょっとこ踊りとフラダンスが

披露され、参加者は浄化槽の普及と福島の早期復興を願いながら和やかに歓談した。

研究発表会では、検査機関による検査で得られた諸知見や取り組み事例、大学・研究機関等による浄化槽の処理能力や効果等の研究成果など16課題の発表が行われた。本県からは当協会の鳴原己八専務理事が「間欠ばっ気運転による溶存酸素量の時系列解析」、浄化槽検査委員会郡山支所の榮宏樹氏が「老人福祉施設における浄化槽の使用実態に関する調査」をテーマに発表した。



発表する榮検査員

2日目は、浄化槽行政担当者研究会と浄化槽検査員研究会を開いた。初めに合同プログラムとして、環境省の藤村紘行浄化槽推進室指導普及係長が浄化槽行政、池上清子環境課水道係長が水環境行政、国土交通省の峯健介下水道事業課計画調整係長が下水道行政の最近の動向や取り組み内容を説明。農林水産省の佐藤修児地域整備課長補佐は「農業集落排水事業の現状と取り組み状況」、総務省の東宣行準公営企業室課長補佐は「下水道財政の現状と課題」、内閣府の岩佐ゆい子地域活性化推進室主査は「地域再生基盤強化交付金を活用した浄化槽整備」について解説した。佐賀県環境科学検査協会の宮崎幸男法定検査部長、日本環境整備教育センターの藤野一樹講習事業グループチームリーダーが情報提供した。



情報提供する宗像主査

続いて各研究会に分かれ研修した。行政担当者研究会では6人が情報提供を行い、このうち県生活環境部水・大気環境課の遠藤敏広主査が「猪苗代湖の水質保全」、三春町企業局の宗像秀幸下水道グループ主査が「三春町下水道における浄化槽の役割と将来に向けた取り組み」について説明。検査員研究会は、浄化槽メーカーの開発担当者らが最新型浄化槽の性能や維持管理のポイントなどについて発表した。

会場内では「2015浄化槽展」も開催され、浄化槽関連企業19社が出展し、最新機器等を展示紹介した。



19社が出展した浄化槽展

# 復興まちづくりで役割果たす 第3回定時総会で大河原会長を再選



当協会は平成27年6月12日、福島市のウェディングエルティで第3回定時総会を開き、役員改選で大河原正一会長＝写真＝を再選した。

会員52人が出席した。大河原会長は「復興に向けた新しいまちづくりで、浄化槽が大きな役割を果たせるよう県、市町村に働き掛け、一日も早い県土の復興に向けて活動を展開する。また浄化槽整備区域拡大、みなし浄化槽の転換、生涯保証システムへの加入をそれぞれ促進し、適正な施工・維持管理・法定管理を通じて顧客が安心して浄化槽を設置・使用できる環境を確立したい」とあいさつ。第29回全国浄化槽技術研究会への参加と合わせ、会員に協力を呼びかけた。来賓の日黒信二県生活環境部一般廃棄物課長らが祝辞を述べた。

議事では26年度事業・収支決算報告、役員選任を審議、27年度事業計画・収支予算を報告した。

27年度は11条検査（BOD測定）の受検率向上、県浄化槽生涯保証システムの加入促進を図るとともに、「一括契約（保守点検・清掃・法定検査）」の実施を全県に拡大。単独処理浄化槽やくみ取りトイレから合併処理浄化槽への転換促進に関する住民へのPRを強化する。猪苗代湖周辺の窒素・リン同時除去型高度処理浄化槽は設置促進と維持管理体制の確保を図る。浄化槽設置整備事業の充実に向けた関係機関への要望活動

なども行う。総会の席上、全国浄化槽団体連合会会長表彰等を伝達し、会員・職員功労者を表彰した。

総会に先立ち、元三春町企業局長の遠藤誠作北海道大学大学院・公共政策学研究センター研究員が「人口減少時代の下水道整備における浄化槽の役割～浄化槽が公共下水道を超える方法～」と題して特別講演した。



26年度事業報告等を審議した総会

## 第3回定時総会表彰受賞者

- 全国浄化槽団体連合会会長表彰状  
長林 久夫（員外）
- 全国浄化槽団体連合会会長感謝状  
遠藤 正幸（伊達支部・遠藤産業）  
佐藤 光典（県浄化槽協会）
- 県浄化槽協会会長表彰状  
長谷川孝蔵（須賀川支部・長谷川環境熱学）
- 県浄化槽協会職員功労者表彰（永年勤続表彰）  
大河内吉二（検査部部長）  
大槻 淳（検査部課長）  
村山 武（郡山支所専門検査員）

## 平成27・28年度役員

役職	氏名	所属	会社名	備考
会長	大河原正一	郡山支部	(株)総合住宅環境センター	再任
副会長	中野 和典	員外（学識経験者）	日本大学工学部教授	新任
副会長	岡 光義	いわき支部	合資会社勿来衛生社	再任
副会長	蛭田 光俊	いわき支部	(株)山崎設備	再任
専務理事	鳴原 己八	員外	(公社)福島県浄化槽協会	再任
理事	吉川 昭	福島支部	福島ネオ工業(株)	再任
理事	山川 正人	福島支部	山川産業(有)	再任
理事	須藤 五郎	二本松支部	(有)須藤住機工業	新任
理事	江口 典志	郡山支部	(有)福島青興社	再任
理事	小野寺 仁	須賀川支部	クボタ環境衛生(株)須賀川支店	再任
理事	古河 清美	石川支部	アメニティ石川地方エコ・サービス協業組合	再任
理事	本多 幸雄	棚倉支部	本多設備工業(株)	新任
理事	佐藤 幸三	喜多方支部	(有)佐藤鐵工所	新任
理事	横山 正弘	会津坂下支部	(株)高田燃料	再任
理事	猪俣 孝之	会津坂下支部	坂下清掃(有)	再任
理事	穴澤 貞夫	南会津支部	(株)光和設備工業所田島営業所	再任
理事	俣野 浩	南相馬支部	(株)公水設備	再任
理事	田原 義久	南相馬支部	(株)昭和衛生センター	再任
理事	長尾 一雄	相馬支部	合資会社長栄社	再任
理事	渡辺 忠行	いわき支部	中央環境整備(有)	再任
監事	紺野 正雄	福島支部	(株)A水技研	新任
監事	鈴木 洋敬	員外（学識経験者）	鈴木洋敬税理士事務所	新任

## 新築等の補助復活要請

### 浄化槽設置整備事業 28年度予算反映を県議会に要望

当協会は平成27年9月3日、県の28年度予算編成に向けて、県議会各党・各会派に①浄化槽設置整備事業における必要予算の確保②みなし浄化槽等から浄化槽への一層の転換促進③浄化槽市町村整備事業における県補助率のアップ④浄化槽の維持管理に対する助成制度創設一を要望した。

大河原正一会長、岡光義副会長、鳴原己八専務理事、吉川昭福島支部長ら理事、本・支部事務局合わせて11人が県庁を訪れ、自民党、民主・県民連合、公明党に対する要望活動を行った。

浄化槽設置整備事業は、21年度の制度見直しで補助対象外となった一般住宅の新築等に対する補助を復活するよう要望。既設みなし浄化槽（単独処理浄化槽）の浄化槽への転換促進では、住民の撤去費の負担が大きく転換が遅れているとして、撤去費補助額の大幅な



自民党に要望書を提出する大河原会長（右）

引き上げと、転換に伴う配管工事費に対する補助制度創設を求めた。

市町村整備事業は、県内実施市町の負担軽減に向けて、県負担分の補助率アップを要望。全額個人負担となっている維持管理費（保守点検・清掃・法定検査）についても県費による助成制度の創設を訴えた。

## 県に予算充実に要望

### 合併促進協、環整連と合同で 減災・防災まちづくりへの支援など

当協会と県合併処理浄化槽普及促進協議会（会長＝高松義行本宮市長）、県環境整備協同組合連合会（岡光義会長）は27年11月4日、県に対して浄化槽関連予算の充実に求める要望書を提出した。特に浄化槽設置整備事業については、住宅の新・増改築が適用外となっ



（左から）大河原会長、長谷川部長、高松市長、岡会長

ている現行の県費補助制度の改善を強く要請したほか、市町村の減災・防災まちづくりを支援する事業の創設も新規で要望した。

大河原正一会長、高松市長、岡会長が県庁を

訪れ、長谷川哲也県生活環境部長にそれぞれ要望書を手渡した。長谷川部長は「水環境の保全などで浄化槽が果たす役割は大きい」と述べ、市町村、関係団体等と連携して整備事業に取り組む考えを示した。当協会の鳴原己八専務理事らが同行した。

要望は①浄化槽設置整備事業における必要予算の確保②みなし浄化槽等から浄化槽への一層の転換促進③

猪苗代湖周辺地域の浄化槽維持管理費用の助成④浄化槽市町村整備事業の県補助率アップ⑤防災・減災型浄化槽整備事業の創設一の5項目。

防災・減災型浄化槽整備事業の創設は、新規で要望したもの。同事業は国が制度創設を検討しているもので、災害に強い浄化槽の特徴を生かしたまちづくりに市町村が取り組めるよう、県にも制度の検討を促した。住宅の新築等が補助対象外となっている浄化槽設置整備事業については、生活排水対策を推進する上で従来制度の復活が欠かせないとして、必要予算の確保を求めた。

既設みなし浄化槽（単独処理浄化槽）等の（合併処理）浄化槽への転換促進では、撤去費の補助制度はあるものの、現状では費用負担が大きいなどの理由から転換が遅れているとして、撤去費補助の大幅な引き上げと配管費用の補助制度の創設を要望。



要望書を手渡す大河原会長（右）

通常浄化槽よりも割高な窒素・りん除去型の設置を義務付ける猪苗代湖周辺地域については、維持管理にかかる住民負担

を軽減する助成制度の必要性を訴えた。市町村整備事業の実施市町の負担軽減を目的に県負担分の補助率アップも求めた。

## 平成26年度 不適正の内訳

該当項目のみ抜粋

問題のあった検査項目	項 目	件数					
		7条		11条			
		~50	51~	単独		合併	
				~50	51~	~50	うちBOD測定 51~
<b>〔外観検査〕</b>							
	01. 水平の状況	1		1		4	1
	02. 浮上または沈下の状況			1		3	
	03. 破損又は変形の状況			2			
	04. 漏水の状況	2		67	6	26	(8)
	07. 嵩上げの状況	3		8		5	
	08. 浄化槽上部及び周辺の利用または構造の状況					5	2
	09. 雨水の流入状況	8	1	3		17	10
	10. 土砂の流入状況			3			1
	11. その他の特殊な排水の流入状況					2	1
	13. ポンプ設備の固定状況					1	2
	14. 接触材、ろ材、担体等の固定及び保持状況	2	1	6		142	(35)
	15. ばっ気装置の固定状況			4	1	2	
	17. 汚泥返送装置及び汚泥移送装置の固定状況						5
	19. 逆洗装置及び洗浄装置の固定状況			2		1	
	21. 消毒設備の固定状況			3		2	
	22. 越流ぜきの固定状況			10		7	(2)
	23. 隔壁、仕切板及び移流管(口)の固定状況			30		15	(2)
	24. その他の内部設備の固定状況			19	19		6
	25. 設置場所の状況	4		1	1	20	11
	26. 流入管渠及び放流管渠の設置状況	26	1	26	7	62	(8)
	27. 送風機の設置状況	4		10		22	(4)
	<b>〔設置状況の小計〕</b>	<b>50</b>	<b>3</b>	<b>196</b>	<b>34</b>	<b>336</b>	<b>(59)</b>
	29. ポンプの稼働状況		1	5		20	3
	30. 送風機の稼働状況	1		85	4	251	(51)
	32. ばっ気装置の稼働状況					2	
	34. 汚泥返送装置及び汚泥移送装置の稼働状況					4	2
	35. 循環装置の稼働状況					1	
	36. 逆洗装置及び洗浄装置の稼働状況	2	1			22	
	38. 制御装置の稼働状況	1				9	6
	39. 調整装置の稼働状況	1		3	1	9	
	<b>〔設備の稼働状況の小計〕</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>93</b>	<b>5</b>	<b>318</b>	<b>(51)</b>
	43. 流入管渠(路)の水流の状況			1		1	
	44. 放流管渠(路)の水流の状況			3	4		1
	45. 各単位装置間の水流の状況					1	7
	47. 原水ポンプ槽及び放流ポンプ槽の水位の状況					2	
	48. 流量調整槽の水位及び水流の状況					1	
	49. 嫌気ろ床槽の水位の状況					10	
	52. 生物ろ過槽、担体流動槽の水位及び水流の状況					16	1
	54. 沈殿槽及び処理水槽の水位及び水流の状況			2			
	55. その他の単位装置の水位及び水流の状況						1
	58. 腐敗室、沈殿分離槽及び嫌気床槽の汚泥の堆積状況または成状況					2	(2)
	62. 消毒槽の汚泥の堆積状況またはスカムの生成状況					2	
	64. 放流ポンプ槽の汚泥の堆積状況またはスカムの生成状況						1
	66. 汚泥の流出状況	5	1			38	18
	<b>〔水の流れ方の状況の小計〕</b>	<b>5</b>	<b>1</b>	<b>6</b>	<b>4</b>	<b>73</b>	<b>2</b>
	67. 油脂類の流入状況					4	2
	70. 流入汚水量、洗浄用水等の使用の状況	2	1	66	3	31	(4)
	<b>〔使用の状況の小計〕</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>66</b>	<b>3</b>	<b>35</b>	<b>(4)</b>
	73. 消毒剤の有無	7	1	11		55	1
	74. 処理水と消毒剤の接触状況	1		1		6	
	<b>〔消毒の実施状況の小計〕</b>	<b>8</b>	<b>1</b>	<b>12</b>	<b>0</b>	<b>61</b>	<b>0</b>
	処理対象人員不足、処理能力の低下、処理能力以上の過負荷	22	1	27	30	15	4
<b>〔水質検査〕</b>							
	・透視度	3				4	1
	・生物化学的酸素要求量	3				2	
	<b>〔水質検査の小計〕</b>	<b>6</b>				<b>6</b>	<b>1</b>
<b>〔書類検査〕</b>							
	・保守点検記録の有無(保守点検未実施)	216		43	2	174	8
	・保守点検の回数		1	9	1	13	(2)
	<b>〔保守点検記録の小計〕</b>	<b>216</b>	<b>1</b>	<b>52</b>	<b>3</b>	<b>187</b>	<b>(2)</b>
	・清掃記録の有無(清掃未実施)	4		322	28	1,162	(32)
	<b>合計</b>	<b>318</b>	<b>10</b>	<b>774</b>	<b>107</b>	<b>2,193</b>	<b>(150)</b>

## 住民信頼確保へポイント学ぶ 適正な維持管理技術講習会



維持管理のポイントを学んだ講習会

当協会は平成27年11月26日、郡山市の郡山ユラックス熱海で「浄化槽の適正な維持管理技術に関する講習会」を開き、出席した保守点検・清掃担当者らが、最新型浄化槽の性能や維持管理のポイント、水質測定器の適正な使用方法などを学んだ。賛助会員メーカーの浄化槽カットモデルや水質測定器などの展示も行った。

浄化槽の適正な施工と維持管理に必要な知識の習得と技能向上を目的に毎年開催している。自治体の浄化槽担当職員、県・中核市の浄化槽保守点検業者登録企業従業員、浄化槽清掃業許可企業に所属する清掃実務担当者ら合わせて約310人が出席した。



浄化槽カットモデルの見学する参加者

初めに、田原義久維持管理部会長が「合併浄化槽が誕生して30年を迎えた。その間、社会的要請に応じて浄化槽の性能は向上している。住民の信頼確保を推進するため適切な維持管理のポイントを学んでほしい」とあいさつした。

講習では、フジクリーン工業東北支店技術課の小河原康浩氏が「C A型」、ハウステック住機環境事業部の日比野淳氏が「K T G型」、ニッコー水創り事業部

の和田吉弘氏が「浄化王N E X T型」のそれぞれ性能、管理ポイントなどを説明したほか、笠原理化工業の永島達実氏が「水質測定機器類の動作確認の結果」について解説。全国浄化槽団体連合会企画技術幹事の中川良男氏による「私は、こんなことを教わってきた—技術者には経営センスを、経営者には技術力を」と題した経営セミナーも行った。

フジクリーン工業、ハウステック、ニッコー、クボタ浄化槽システム、大栄産業、笠原理化工業、日環商事、メドー産業、飯島電子工業、エフコム福交システムズ、福島コンピュータシステム、H H C、サナが情報提供したほか、会場内に会員メーカーの最新製品などを展示紹介した。

## 適正施工へ技術向上図る 県などを講師に郡山で講習会

当協会は28年1月22日、郡山市の郡山ユラックス熱海で浄化槽の適正な施工に関する講習会＝写真＝を開催し、市町村や会員外企業を含め施工関係者127人が出席し、施工技術の向上に努めた。



初めに、吉川昭施工部会長が「浄化槽は地震に強く、財政負担が軽いなどのメリットがあるが、設置から長期間使用できることも利点の一つ。そのためには適切な施工が大変重要だ」と講習会の意義を伝えるとともに、市町村担当者に対して、浄化槽による汚水処理整備と浄化槽整備事業設置工事での講習修了者所属企業への優先発注を呼びかけた。

講習では、県土木部建築指導課の五十嵐浩一専門建築技師が「建築基準法における浄化槽の取り扱い」、当協会浄化槽検査委員会の大河内吉二検査部長が「法定検査における施工状況」について説明したほか、浄化槽システム協会技術委員会副委員長を務める和田吉弘ニッコー（株）技術推進部長が「浄化槽の設計・施工上の運用指針（2015年版）」を解説した。

## 平成27年度 会員の入会状況

	支部	会社名	代表者名	所在地	電話番号	業種別	入会日
正会員	田村 ※再入会	大越住設	猪狩 光雄	〒963-4114 田村市大越町牧野字岡田73	(0247) 85-3174	工事業 保守点検業	27.4.1
	棚倉	(株)カンスイ	本多 昌雄	〒963-5341 東白川郡塙町字台宿字下稲沢385-19	(0247) 44-1737	保守点検業	27.4.1
	いわき	(株)アイシン	熊谷 実	〒971-8181 いわき市泉町本谷字大田 19-1	(0246) 58-5051	工事業	27.7.1